

令和6年12月12日

那覇市議会議長

野原嘉孝様

都市建設環境常任委員会

委員長 栗國 彰

委員会視察報告書について

都市建設環境常任委員会において、令和6年10月22日（火）から10月25日（金）の日程で先進都市の委員会視察を行ったので、その視察調査結果について下記のとおり報告する。

記

1. 視察期間 令和6年10月22日（火）～10月25日（金）

2. 視察都市及び調査事項

(1) 富山市議会（富山県）

◆公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりについて

(2) 富山県議会（富山県）

◆富岩運河環水公園について

(3) 富士見市議会（埼玉県）

◆びん沼自然公園整備事業について

(4) 国土交通省（東京都）

◆区画整理事業における擁壁への建築基準法の適用について

3. 視察調査結果 別紙① 都市建設環境常任委員会視察報告書のとおり

4. 視察参加者 委員長 栗國 彰

委員 山田 マドカ、奥間 綾乃、古堅 茂治、上原 仙子、

清水 磨男、大城 幼子、山川 典二

随員 城間 裕介、山城 育子

※坂井浩二委員については、一身上の都合により視察参加を取りやめた。

5. 視察写真 別紙②のとおり

令和6年度 都市建設環境常任委員会 視察報告書

富山県 富山市

令和6年10月23日（水）午前9時30分

○公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりについて

（富山駅現場視察）

○応対者

- ・富山市議会 議長 様、議事調査課 様
- ・富山市 活力都市創造部 交通政策課 様

1 視察内容（事業概要、背景、問題点、課題、比較等）

【事業概要】

富山市では、人口減少と高齢化に対応するため、公共交通を基盤としたコンパクトなまちづくりを推進しています。2006年に開業した富山ライトレールは、ＪＲ富山港線を転用し、ＬＲＴ（路面電車）として再生した日本初の事例です。この事業は市民の移動手段を充実させ、中心市街地や沿線エリアの活性化を図ることを目的としている。

ＬＲＴ整備の経緯と内容

- ・整備内容：ＪＲ富山港線の路面電車化、駅舎やホームのバリアフリー化、ＩＣカード導入、車両デザインの統一など
- ・沿線開発：沿線地域の活性化に向けた施設整備や民間投資の誘発
- ・延業長：7.6Km（鉄道区間6.5Km、起動区間1.1Km）
- ・新型の低床車両を導入。
- ・定員：80名
- ・車両数：7編成（2両1編成）
- ・所要時間：約25分（富山駅北－岩瀬浜）
- ・停留所（電停数）：13
- ・運賃は一律210円
- ・運行体制：15分間隔の運行

利用者数の増加

開業当初に比べ、ＬＲＴ利用者数は平日で約2倍、休日で約3倍に増加しており、特に高齢者や女性の利用が顕著である。これにより、住民の外出機会が増え、社会的なつながりが強化された。

経済的効果

沿線での民間開発が進み、中心市街地の商業施設への来訪者数が増加した。また、商業施設での消費額も増加しており、地域経済の活性化に貢献した。

環境への貢献

自動車利用の抑制によるＣＯ２排出量の削減効果も確認されており、持続可能な都市づくりに貢献した。

課題

- ・持続的な利用促進：今後も人口減少と高齢化が進行する中、持続的にL R Tの利用者を確保する必要がある。
- ・運営コスト：都市管理コストの増加への対応や、他の公共交通機関との連携も重要な課題である。

今後の計画

富山市は今後、路線の延伸、運行本数の増加、他の交通機関との連携を強化し、さらなるサービス向上を図る方針である。また、L R T沿線での居住推進や市街地の一体的なまちづくりを進める予定である。

2 質疑応答、意見・考察

【質疑応答】

Q 1：路面電車が専用軌道ではない場合の課題について質疑。特に、沖縄のようにレンタカーが多い地域では、車両との事故やダイヤの乱れがどのように対応されているかを伺う

A 1：問題と対策

初期段階では交差点での右折車両と路面電車との接触事故が発生していたが、以下の対応で劇的に減少。

- ・交差点信号の改良（右折信号のタイミング調整）。
- ・路面電車注意の標識設置。
- ・結果として、現在では事故がほとんど発生していない

Q 2：路面電車の駅間距離や高齢化社会への対応について質疑

- ・北陸新幹線の開業が富山市や路面電車にどのような影響を及ぼしているか。
- ・富山市での具体的な連携方法やその効果について伺う

A 2：駅間距離と高齢化対応についての回答

- ・駅間距離：おおむね 400 メートル前後（短い区間もあり）。
- ・高齢者への配慮：路面電車の利便性を活かし、高齢者が住みやすい街づくりを目指す。
- ・新幹線の影響：北陸新幹線の開業が都市開発に大きな効果を及ぼしている。駅周辺の整備を進め、観光や地域活性化を推進

Q 3：駐輪場の必要性和整備についての質疑

- ・路面電車や鉄道駅から一定距離を超える利用者が、自転車を使って駅までアクセスする現状への対応。
- ・駐輪場の設置規模やその利便性が、公共交通の利用促進にどのように貢献するか。

A 3：駐輪場設置に関する回答

1. 駐輪場の必要性

- ・路面電車や鉄道駅から半径 500 メートル、バス停から 300 メートルを徒歩圏内（10 分以内）と定義しているが、それ以上の距離からも利用者が訪れるため、自転車は重要なアクセス手段である。
- ・設置した駐輪場には、予想以上に自転車が集まる傾向がある。
- ・長期間放置される自転車についても管理を徹底している。

2. 整備状況

- ・路面電車沿線では、既に多くの駐輪場が整備されている。
- ・バス路線沿いにも駐輪場を積極的に設置。

3. 効果と意義

- ・駐輪場の整備は、公共交通の利便性を向上させ、利用促進に非常に効果的。
- ・コストが比較的低く、利用者にとっても重要なインフラであると評価

【考察】

富山市の L R T 事業は、公共交通を基盤としたコンパクトなまちづくりのモデルケースとして、他都市にとっても非常に参考になるものである。

高齢者や公共交通を使わざるを得ない人々にとっての生活の利便性向上、地域経済の活性化、さらには環境負荷の低減といった多方面での効果が見られる。

今後、路線のさらなる拡充や地域住民との協力体制を強化することで、さらに魅力的な公共交通モデルを構築できると考えられる。

令和6年度 都市建設環境常任委員会 視察報告書

富山県

令和6年10月23日（水）午後2時

○富岩運河環水公園について（富岩運河環水公園現場視察）

○応対者

・富山県 都市計画課 公園緑地係 様

1 視察内容（事業概要、背景、問題点、課題、比較等）

【視察内容（事業概要、背景）】

- ・1997年7月に一部開園し、2011年3月に全部開園した公園である。
- ・富山から日本海富山湾の岩瀬までつながるため、頭文字をとって富岩運河としている。
- ・約5.1kmの富岩運河自体は、1935年に完成した。
- ・環水は、水がまわるイメージを取り入れネーミングである。
- ・2013年には、都市公園コンクール設計部門において、国土交通大臣賞を受賞している。
- ・1960年代、物流の中心がトラックへ移行し、運河が廃れていった。
- ・当初は運河を埋めて、道路整備を計画していたが、1980年代に方針転換した。
- ・まちなかの貴重な水辺として保存と再生する方針とした。
- ・富山駅北の国鉄用地の処分活用もあわせて、1989年に「とやま都市M I R A I計画」を策定した。
- ・今では、富山駅から徒歩9分の場所に、これだけ自然あふれる施設があるのは、全国でも珍しい事例とのことである。
- ・公園面積は約9.8ヘクタールである。
- ・公園内に美術館や飲食店、運河クルーズなどを有している。
- ・ただし、運河沿いは、港湾区域となっている。
- ・隣接する富山市総合体育館などの施設とも連携し、色や素材感を富山の自然のイメージに統一させている。
- ・スターバックスコーヒーは2008年にオープンした。
- ・土地を貸し出しており、施設は自前で作っている。
- ・パークP F Iが無かった時代の取り組みであり、この成功が全国的なパークP F I導入につながっている。

2 質疑応答、意見・考察

【質疑応答】

事業立案の経緯と目的について

- ・事業概要での説明に加え、1980年代、全国的に水辺を見直す機運が高まった。
- ・北海道小樽運河の観光地化などが行われていた時代であり、それに伴い、方針転換を行った。

事業の効果、利用者の満足度について

- ・令和5年度に満足度調査を実施しており、61%が満足、26%はやや満足と回答した。あわせて87%となっている。

利用者について

- ・地域住民や国内観光客に加え、近年ではインバウンドの利用者が増えている。
- ・富山県内の観光施設では、1位の利用者数を誇る。

利用上の課題について

- ・駐車場の満車問題が課題となっている。
- ・週末やイベント時の混雑、立地のよさからの目的外の駐車などがある。
- ・解決に向けて、利用者アンケートや、A I カメラでの実態調査を行い、有料化に向けて取り組んでいる。

スターバックスコーヒーの経緯について

- ・10年の期間で貸し出している。
- ・1度更新があり、16年目となっている。
- ・スターバックス側からは、そろそろ施設の改修の意向も出始めている。
- ・管理区分に関連して、清掃に関する協定を締結している。

公園協議会の設置について

- ・特にない。

今後のパークP F Iの導入について

- ・2022年度に、導入に向けて、県内8つの県立都市公園を対象としてサウンディング調査を実施した。
- ・富岩運河環水公園については、すでに施設が多くあることなど、活用の提案がなく検討していない。

【意見・考察】

- ・実際に公園をまわりながらの説明と質疑であり、より理解が深まった。
- ・運河の有無、国鉄用地の処分など、偶然の条件もあるが、十分に今後の那覇市の参考となる。
- ・水辺の活用という点からも、国場川にかかる那覇市の今後の取り組みの参考となった。
- ・民間の飲食店との連携も、双方にプラスになる手法が重要である。
- ・「とやまビューポイント（ふるさと眺望点）」が公園内で分かるように表示されていた。
- ・那覇市の場合、計画上は眺望の議論になるが、現地ではわかりにくいいため、活用が求められる。
- ・駐車場の課題は、那覇市でもすでに議論されてきた内容であり、引き続き参考としたい。
- ・「計画があるから」、「公園が必要だから」の整備ではいけない。
- ・利用者、管理者の双方にとって満足する運営となるよう、那覇市でも計画段階から確認していく。

令和6年度 都市建設環境常任委員会 視察報告書

埼玉県 富士見市

令和6年10月24日（木）午後3時

○びん沼自然公園整備事業について（びん沼自然公園現場視察）

○応対者

・富士見市 様

1 視察内容（事業概要、背景、問題点、課題、比較等）

【事業概要、背景】

富士見市の概要

富士見市は埼玉県南東部に位置し、面積 19.77 平方キロメートル、人口 11 万 3,426 人。首都圏のベッドタウンとして発展しており、東武東上線の3駅が市内にあるため都内へのアクセスも良好である。

住宅地としての開発が進み、緑豊かな公園が多数整備されているほか、医療や商業施設も充実している。

都市計画と公園整備

都市計画では市南西部を中心に市街化区域（約 43%）、北東部に市街化調整区域（約 57%）が配置され、住環境と自然環境のバランスを図る。

公園として、都市公園 59 か所、市民緑地 36 か所、保存樹林 14 か所を有し、主要な公園として「むさし野緑地公園」「水子貝塚公園」「難波田城公園」「山崎公園」が整備されている。

事業の概要

びん沼自然公園は埼玉県の「川の再生事業」の一環として整備され、令和5年4月にリニューアルオープンした。8ヘクタールの敷地内に、パークゴルフ場、大型遊具、遊歩道、バーベキュー場、キャンプ場などが設けられた。

整備費用：9億8,500万円 パークゴルフ場：2億円

平成27年度に「富士見市キラリと輝く創生総合戦略」を策定し、その中で、隣接する「県立富士見青年の家」の跡地の活用と、埼玉県の水辺空間の整備・拡充を行う「川の国 埼玉はつらつプロジェクト」事業と連携し、意見を聴取し、方針を決定した。

また、びん沼自然公園を含む南畑地域の魅力向上及び地域活性化を目的としている。

運営管理と課題

指定管理制度を通じて、民間企業「びん沼アクティブネイチャーJ.V」に公園管理を委託。運営企業は定期的にイベントを開催し、季節ごとに変化のある施設運営を実現している。また、地域住民で構成される「びん沼川河川利用調整協議会」を設置し、地域住民からの意見を取り入れた柔軟な運営を行っている。

公園利用促進のため、バーベキュー場のナイト営業や自然学習会を開催し、びんぬマルシェなどの地域イベントも定期的に実施。

2022年度の利用者数はパークゴルフ場 1万7,996名、バーベキュー場 8,253名、キャンプ場 2,183名と盛況だが、夏季の猛暑や浸水による利用制限が課題となっている。

また、過去に洪水による浸水が発生しており、特にパークゴルフ場周辺では年に数回浸水する課題がある。

2 質疑応答、意見・考察

【質疑応答】

事業の効果について

昨年度、びん沼自然公園内にてアンケートを実施したところ、約 82%の方が大満足・満足と回答を得ている。

指定管理者と飲食店舗等の管理区分について

- ・ 飲食部分を含め、びん沼自然公園内全ての管理・運営を指定管理者が行っている。
- ・ イベント等の自主事業の企画・運営等についても指定管理者が全て任されている。
- ・ 指定管理費：年 2,600 万円 5 年契約

※ 芝生の管理は別事業者が行っている。“水”が大事で、地下水を利用している。

P a r k - P F I 導入の検討について

国主催のサウンディング型市場調査を活用し、P a r k - P F I 等民間活力の活用を検討を行ったが、参画意向の事業者がなかったため、導入には至らなかった。

その他の課題について

- ・ 屋外施設であり天候の影響を受けるため、安定的な利用者の確保。
- ・ パークゴルフの普及。
- ・ 駐車がイベント時には満車になり、代替駐車場を近隣で確保することが難しい。現在、220 台。平日は無料。
- ・ 他団体や施設との連携。
- ・ キャンプ場とパークゴルフ場のトイレ等の水回りの整備が難しく、不便である。
- ・ 河川に沿うため、日除けになる東屋等の構築物が建てられないこと。

今後の計画について

- ・ パークゴルフの定例大会の実施。
- ・ びんぬマルシェ等のイベントの開催等（防災マルシェ → 近隣病院や消防等との協力）。

【意見・考察】

- ・ びん沼自然公園の整備計画が富士見市の令和 3 年から 20 年にわたる最上位計画に位置づけられ、第 6 次基本構想の主要事業として環境にやさしい水と緑のまちづくりを目指して定められ進められている点に注目した。
- ・ 子どもから高齢者まで老若男女まで楽しめる大型遊具場を始めパークゴルフ場、日帰り可能なバーベキュー施設、キャンプ場、公園内の遊歩道と河川デッキを結んで自然に感じれる散策路、多目的ルームなどステップ・バイ・ステップで公園内の魅力向上を図る姿勢を感じた。
- ・ 特に指定管理者制度を導入しパークゴルフ場やバーベキュー施設、キャンプ場などの有料施設利用者は約 3 万人で目標の 66.7%の達成率だが、バーベキュー施設、キャンプ場、多目的ルームなどは軒並み利用者が増えており、今後に期待できる状況だと感じた。

令和6年度 都市建設環境常任委員会 視察報告書

国土交通省

令和6年10月25日（金）午前10時

○区画整理事業における擁壁への建築基準法の適用について

○応対者

- ・市街地整備課 様
- ・建築指導課 様

1 視察内容（事業概要、背景、問題点、課題、比較等）

【背景】

那覇市議会は土地区画整理事業の地権者で構成する「土地区画整理事業を考える会」から陳情を受け、委員会において所管事務調査を行ってきた。同事業は専門性が高く関係法令も複雑であることから、争点について一定の結論を得るために、国土交通省の所管課からご教示を受けるため視察を申し入れさせていただいた。

【問題点】

争点となっている問題点は、以下の3点である。

- ①土地区画整理事業で築造される宅地擁壁に建築基準法は適用されるのか
- ②区画整理以前から設置されている石積み不適格擁壁の責任の所在について
- ③土地区画整理事業における道路と宅地造成の在り方について

【回答】

問題点について質問を上げたところ、①～③の質問については、基本的に土地区画整理事業は、自治業務であるため裁量が施行者にあり、国が一律に答えるのは困難である。上からものを言うものではないと認識している、との説明が主であった。

2 質疑応答、意見・考察

【質疑応答】

質疑応答では「法令遵守を求めるのが国の仕事ではないのか」という意見や、「こういうトラブルを解決できる方法は国にないのか」という質問も出たが、「国が指導した例や立ち入った事例はない」とのことであった。

清算金については、「公平性を保ち、路線評価方式を用いて、地権者同士の格差を埋めるものになっていて、別段の考慮をしている事例はない」とのことであった。

【意見・考察】

- ・那覇市における土地の換地処分問題は、公平性や法令適用の不明確さ、消滅時効の影響が課題であり、一部地域で換地処分が不明確なため、市民間の不公平感や不満が生じている。
- ・清算金の透明性確保や公平な基準の設定が重要である。
- ・国の介入は限定的であり、地方自治体と市民との対話が解決の鍵になる。
- ・清算金の評価基準の明確化、換地処分基準の説明、市民参加の促進を通じて、公正で透明性のある対応が求められている。

視察写真 富山市

令和6年10月23日（水） 午前9時30分

公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりについて（現場視察：富山駅）



視察写真 富山県

令和6年10月23日（水）午後2時

富岩運河環水公園について（現場視察：富岩運河環水公園）



視察写真 富士見市

令和6年10月24日（木）午後3時

びん沼自然公園整備事業について（現場視察：びん沼自然公園）



視察写真 国土交通省

令和6年10月25日（金） 午前10時

区画整理事業における擁壁への建築基準法の適用について

